

環境省 環境研究総合推進費

研究課題名「持続的地域社会構築の核としての自然保護地域の評価・計画・管理・合意形成手法の開発」

サブテーマ5「国立公園の観光振興の到達度評価手法の開発」

アイルランドにおける 指標を活用した 協働型管理の現状と課題

観光文化研究部

主任研究員 五木田 玲子



ダブリン工科大学 (Dublin Institute of Technology、DIT)

DIT-ACHIEV Model



Case1 Killarney



Case2 Carlingford



Case1 Killarney





Killarneyの概要



人口:約14,000人

観光客数:約50万人

位置:アイルランド南西部

観光業の位置付け:

観光業はキラニーの原動力ともいえる重要な産業

特徴

・アイルランドの有名老舗観光地(観光地としての250年の歴史)。首都ダブリンよりも5つ星ホテルが多い

・アイルランド最初の国立公園「キラニー国立公園」に隣接。国立公園と共存する街

出典: Killarney Chamber of Tourismパンフレット

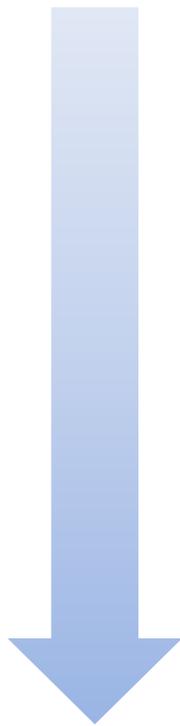


指標（DIT-ACHIEV Model）導入の経緯

- 2006年の不況、湖の水質悪化などを経て、TIDY TOWN*（美しいまちコンテスト）に取り組むことに。老舗観光地であっても新しいものを学ぶという姿勢。
- 2008年、アイルランド国内の15～16の候補地から、指標導入のモデル地域として選定された。



DIT-ACHIEV Modelプロジェクトの流れ



STEP 1. 運営委員会の設置

STEP 2. 対象エリアの設定

STEP 3. 指標の抽出

STEP 4. 既存データの収集と照会

STEP 5. 新規データの収集

STEP 6. データ分析、問題点の抽出

STEP 7. 管理、評価及びモニタリング



運営体制

運営委員会の構成員

- Killarney Chamber of Tourism and Commerce キラーニー観光商工会議所
- Killarney Town Council キラーニータウン議会
- Kerry County Council ケリー州議会
- Killarney National Park キラーニー国立公園
- Muckross House Trustees マクロスハウス
- Irish Environmental Protection Agency アイルランド環境保護庁
- National Tourism Development Agency, Fáilte Ireland
アイルランド観光庁
- DIT ダブリン工科大学
- IHF Irish Hotels Federation (ホテル業界団体)
- An Garda Síochána (地元警察)
- O'callaghan Tours (新規ビジネスオーナー)
- KDYS Killarney (非営利団体：地元の若者への指導等)
- TIDY TOWNS

多様な利害関係者の参画



Killarney National Park,
Department of the Environment, Heritage
and Local Government.



STEP2 対象エリアの設定

STEP3 指標の抽出



指標 (DIT-ACHIEV Model) の全体構成

6つの観点から33の指標を設定



資料: DITケビン・グリフィン氏らの資料を基に作成

出典: 観光文化222号・自主研究報告(2)・欧州の先行事例に学ぶ「持続可能な観光のための指標」の導入過程
—イギリス・アイルランド視察報告 清水 雄一



STEP4 既存データの収集と照会

STEP5 新規データの収集

- 来訪者調査
- 住民調査
- 事業者調査
- 環境調査



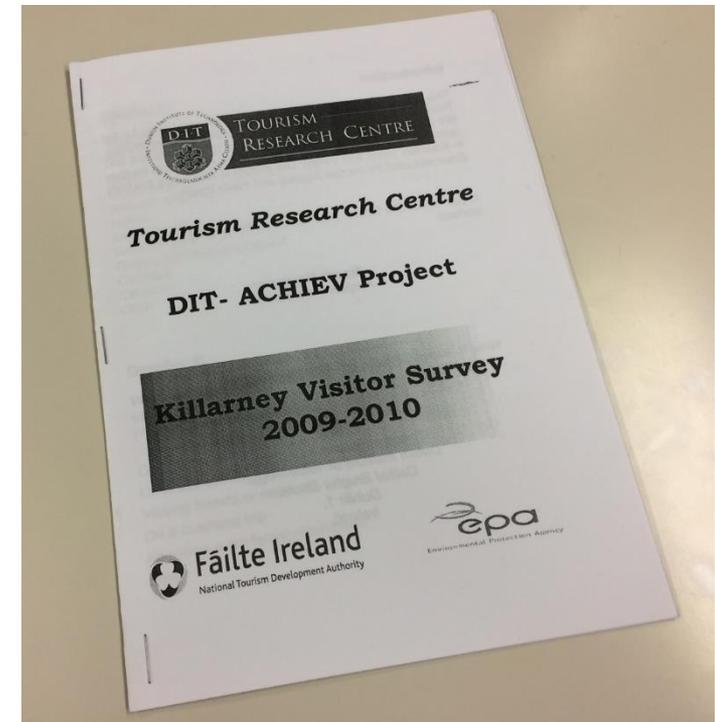
観光客調査

調査期間：2009年11年～2010年10月

回答者数：659名

調査項目：

- 回答者のプロフィール
- 同行者・人数、来訪回数
- 滞在種別、宿泊数、宿泊施設タイプ
- 訪問の主な目的、キラニーを選んだ理由
- 活動内容、最も楽しかった活動
- 最も良かった体験、悪かった体験
- 個別項目(環境、インフラ、施設管理、混雑、サービス等)に対する評価
- 旅行の行程、交通手段、消費額
- 総合満足度、紹介意向 等



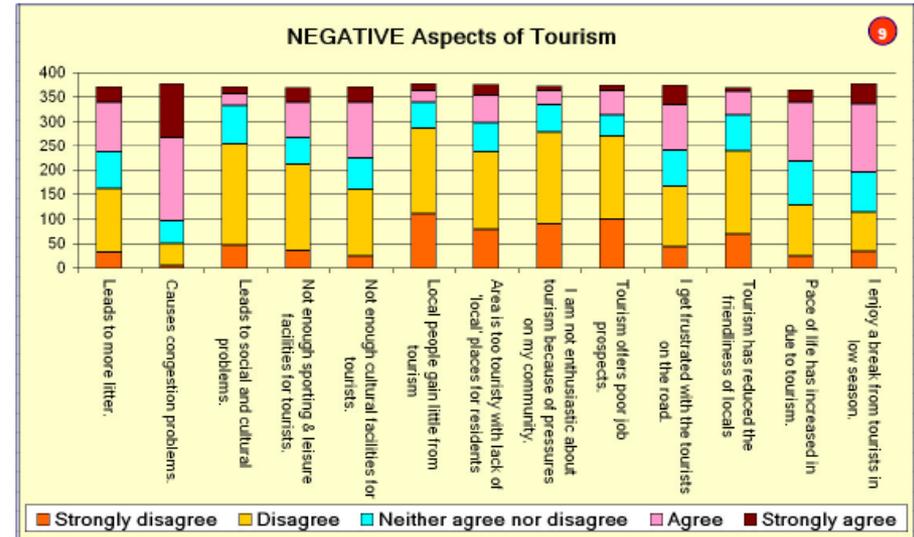
住民調査

調査期間：2010年始め

回答者数：436名

調査項目：

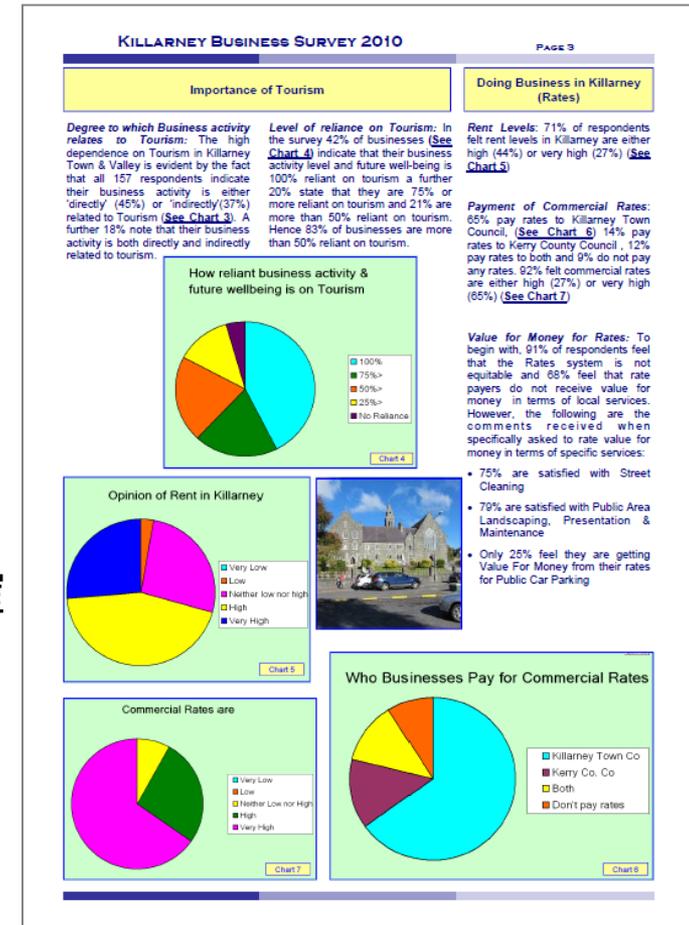
- 回答者のプロフィール
- 地元住民と観光客の関係、観光客のバランス
- 観光繁忙期とその時期における旅行者への対応
- キラーニーでの生活の質への観光の貢献度
- キラーニーにおける観光の影響
(経済、インフラ、雇用、・・・)
- 観光のプラス及びマイナスの影響に対する考え 等



事業者調査

調査期間：2010年5～9月
 対象者数：250事業者
 回答数：157件(回収率63%)
 調査項目：

- 基本情報(事業内容、操業年数、従業員数)
- 観光との関係性
- 雇用状況(平均勤続年数、研修内容)
- キラーニーでの事業展開について(労働力の確保のしやすさ、賃金水準、インフラ評価等)
- 継続性と環境についての考え(事業方針、環境政策、・・・)
- 地域社会活動との関わり、協力関係 等



アウトプット（指標とその評価）一例

| 分野 | 指標 | 評価可能なパラメーター | 解釈 | 状態 |
|--------|----------------|----------------------|----------------------------------|-------------|
| 遺産 | 水資源の質 | ・湖沼と河川の物理的化学的水質 | ・全リン10 ug/l未満 (2009) | Stables |
| 企業 | 観光産業の雇用の質 | ・労働力全体に占める観光産業従事者の割合 | ・人口の20%がホテルやレストランで勤務 | Some Issues |
| コミュニティ | 観光に関する住民の意識と態度 | ・観光への関与意識 | ・観光の重要性を認識しながらも、観光への関与意向が17%に留まる | Issue |
| 来訪者 | 来訪者のプロフィール | ・来訪者のタイプ | ・アメリカ人市場への偏り | Some Issues |
| | | ・繁忙期と閑散期の来訪者数の適正バランス | ・繁忙期に来訪者が集中、分散の必要性 | Some Issues |
| | 地域管理者への来訪者の理解 | ・汚染やゴミの管理 | ・合理的(水質満足度:70%/自然環境の質満足度:98%) | Stable |



Killarneyにおける成果

- 多様なステークホルダーに共有のビジョンを持たせ、責任を自覚させるのに有効
- 結束力の高まり
- 今後の比較対象基準となるデータの取得
- 行政に観光セクション立ち上げ
- 2011年TIDY TOWN優勝



Case2 Carlingford



(下)出典: <http://www.carlingfordadventure.com/>

Carlingfordの概要



出典：Killarney Chamber of Tourismパンフレット

人口：約2,000人(半島全体で約10,000人)

観光客数：約7,000人
(観光案内所訪問者数)

位置：アイルランド北東部、北アイルランド
(イギリス)との国境付近に位置

観光業の位置付け：

観光業に取り組み始めて25～30年程度、
企業からの投資はほとんどない。観光
以外では、農業、酪農、水産業など

特徴：

・海と山に囲まれ、中世の面影を色濃く残
している小さな街。ハイキングやマリ
ンスポーツなどのアクティビティも楽しめる



Carlingfordにおける指標導入の経緯と成果

指標導入の経緯

- 街づくりの方向性がなく、施策や取り組みはバラバラ…観光業を発展させたい、という思いから指標導入を決意。
- 2008年、アイルランド国内の15～16の候補地から、指標導入のモデル地域として選定された。

KillarneyとCarlingfordは異なる

成果

- 多様なステークホルダーに責任を分担させるのに有効
- 結束力の高まり
- 今後の比較対象基準となるデータの取得
- 新たな組織の立ち上げ(既存団体の連携)
- 行政と話し合いの機会の増加

るタイプの観光地だが、両地域ともプロジェクトは成功



アイルランドにおける指標開発の目的

指標開発の目的は、利害関係者の積極的な関与を図ることを通して、アイルランドの観光産業をより持続可能なものにする

そのために・・・

持続可能な観光のための管理・運営を目指すシステム“DIT-ACHIEV Model”を構築



アイルランドにおける指標開発の流れ (DIT-ACHIEVモデル)

表1 DIT-ACHIEV Modelの取り組み

| 取り組み期 | 地域 | 導入成否 | 主な要因 |
|-------------------|----------------------------|------|---|
| 第一期 (2004～06年) | ティペラリー (Tipperary) | △ | •指標の開発はできたものの、内容がアカデミックすぎて、地域関係者には扱いにくいものとなってしまった |
| 第二期 (2008～11年) | キラニー (Killarney) | ○ | •測定項目や結果について厳密にしすぎないこととした •地域のコミュニティ、現場の実践者などを巻き込んで取り組んだ •地域関係者自らモニタリングできるようにトレーニングプログラムを策定した |
| | カーリングフォード (Carlingford) | ○ | |
| 第三期 (2012年～現在) | テンプルバー (Temple Bar) | × | •地区の関係組織に指標導入の意識を持たせることができなかった |
| | フィンガル (Fingal) | — | (導入検討中) |

(注) 導入成否:ヒアリング内容から筆者により仮に評価した

出典: 観光文化222号・自主研究報告(2)・欧州の先行事例に学ぶ「持続可能な観光のための指標」の導入過程
—イギリス・アイルランド視察報告 清水 雄一



重要ポイント及び課題

- 意欲と行動力のある中核人材（地域のプロジェクトリーダー）
- 運営メンバーの多様性
- 地域住民の声（パブリックミーティング、等）
- 予算の確保
- 人材、プロジェクトの引き継ぎ（作業だけでなく、意味や熱意も）
- 地域によりそった専門家の存在（例えば、DIT）



日本での展開に向けて・・・

